

競技運営に関する注意事項 学童の部

(2026年度版)

1. 会議で説明を受けた事項及び決められたことは選手全員に徹底させること。
2. ベンチは、組合せ番号の若いチームを一塁側とする。
3. シートノックは5分間とする。 ノッカーは監督又はコーチとし、必ずユニフォーム及びスパイクを着用すること。なお、捕手はプロテクター、レガーズ、捕手用ヘルメット、ファウルカップを必ず着用すること。又、大会運営の関係でシートノックを行わず試合を開始することもある。 この場合、攻守決定の際通告する。
4. 球場内でのフリーバッティングは認めない。
5. その日の第一試合は、予告時刻の40分前に監督と主将が本部に打順表を提出する。第二試合以降は、前の試合の3回終了時に、監督と主将が打順表を提出する。打順表は、本部が用意する。(5部提出)
6. 試合開始時刻になっても球場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
7. 試合当日の登録変更、追加、及び背番号の変更などは一切認めない。
8. ベンチ内での電子機器類(携帯電話)・携帯マイクの使用を禁止する。メガホンは1個に限る。
9. 学童大会では、打者、次打者、ベースコーチ、走者とも両側にイヤラップのついたヘルメットを必ず着用すること。又、捕手はマスク、ヘルメット、プロテクター、レガーズ(両足)、ファウルカップを必ず着用すること。これらはいずれもSGマークの付いた連盟公認の物を使用すること。
10. 試合開始と試合終了の際、両チームの主将は握手をすること。
11. 試合のスピード化の為、次のことを必ず実行すること。
 - a) 攻守交代は必ず駆け足で行うこと。但し、投手に限り内野地域内は歩いて差し支えない。
 - b) 投手は、捕手のサインを見るときは、必ず投手板について見ることを厳重に実施すること。
 - c) 2回以降の投手の準備投球は、4球以内とする。状況によって考慮する。
 - d) 審判員に対する判定(ストライク、ボール、アウト、セーフ、フェア、ファウルなど)のアピールは厳禁する。
 - e) 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。
 - f) スパイクの紐の締め直し、ユニフォームの土を払うためのタイムは認めない。
 - g) タイムは1分以内とする。但し、審判員が認めた場合、この限りでない。
 - h) 捕手を含む内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数を3回以内とする。但し、監督と共に行った場合は、野手、監督共に1回と数える。なお、延長戦(タイブレイク含む)となった場合は、1イニングに1回行くことができる。
 - i) 監督が1試合に投手のところへ行ける回数は、3回以内とする。なお、延長戦(タイブレイク含む)は、1イニングに1回行くことが出来る。
 - j) 攻撃側のタイムの制限。攻撃側のタイムは、1試合3回以内とする。なお、延長戦(タイブレイク含む)は、1イニングに1回行くことが出来る。
12. 試合中(インプレイ中)に、ファウル地域であっても2組(4名)以内の投球練習は認めるが、ランニングしたり、予備運動等をすることは認めない。但し、イニングの間は、これを認める。
13. 試合のスピード化を図るため、走者が負傷などで治療が長引く場合は、相手チームに伝え代走(打撃の前位の者、投手及び捕手を除く)を認め、試合を続行させる。(コーティシーランナー)
14. 試合中の禁止事項
 - a) バットリング、鉄パイプなどをグラウンド内に持ち込むことを禁止する。
 - b) 投手が手首にホータイを巻く必要のある時は、球審の承認が必要である。
 - c) 足を上げてのスライディングを禁ずる。このスライディングが妨害と認めた場合は、守備妨害でアウトとする。
 - d) 空タグを禁ずる。この空タグによって妨害になったと認めた場合は、走塁妨害を適用する。
 - e) プレーヤーが塁上に腰をおろすことを禁止する。
 - f) 金属製スパイクの使用を禁止する。
 - g) 相手チームや審判員に対して、聞き苦しい野次は厳禁する。又、スタンドでの自チーム側の応援の野次もチームの責任とする。この行為を犯した場合は、審判員、控え審判員、本部役員が厳重注意する。再度注意しても聞かない場合は退場させる。
15. マナーについて
 - a) 投手が ヒット・バイ・ピッチ(死球)を投げた場合、打者に対して帽子を取り謝罪の態度をすること。
 - b) 投手が投球動作を起こすと同時に歓声を上げたり、応援団が鐘、太鼓をたたいて投手の動揺を誘うような非スポーツマン的な行為は慎むこと。
16. 記念写真撮影について
チームの集合写真を「榊共同写真企画」が撮影します。全チーム開会式開始前に撮影を終えて下さい。写真購入希望チームは、後日同社が見本を送付してきますので、それを見た上で申し込んで下さい。
各チームの保護者、又は関係者が、閉会式の際にグラウンド内に入っの記念撮影は禁止いたします。
「榊共同写真企画」は全日本軟式野球連盟公認の会社ですので、各支部はご協力下さいますようお願いいたします。
17. 開会式の行進について(閉会式 同様)
開会式は、大会の大切な意義あるセレモニーであり、手を大きく振り、足を高く上げて元気よく行進すること。行進の練習もしておくこと。
18. チームの応援団は、連盟のアマチュア規定に触れることに無きよう注意すること。また、自分達のゴミは自分達で処理をして、スタンドを汚さないよう注意すること。